

2002年9月アルゼンチンの経済情勢

2002年10月
在アルゼンチン大使館

1. 概況

実体経済には依然として回復の気配は見られないが、引き続き為替市場が安定している他、銀行への定期預金が戻り始め、預金引出制限の一部緩和が発表される等、金融の正常化に向けてわずかながら前進が見られた。しかし、IMFとの交渉はいまだに目途が立たず、国際機関に対するデフォルトが依然として懸念されている。

2. 経済の主な動き

(1) IMFが債務28億ドルの返済期限延長を承認

IMF理事会は、9日に返済期限の来る債務28億ドルについて、1年間の支払延長を承認した。IMFとの交渉がなかなかまとまらない中で、巨額の債務支払は行えないとする亜政府の要求をIMFが認め、懸念されている国際金融機関に対するデフォルトは一時的に回避された。

(2) 預金引出制限の一部緩和を発表

10日、ラバーニャ経済相は、10月1日から7千ペソ（各銀行の判断により1万ペソ）以下の定期預金について、自由に引き出しを認めることを発表した。対象となる預金は約17億ペソ、全定期預金に占める割合は約8%とされ、対象となる預金者数は約64万人、全預金者の6割となる。最近の為替は安定しており、引き出された預金がドル買いにまわることは少ないと見られている。

同時に、預金の債券への交換（Canje II）が行われることも発表され、預金者は、期間10年のドル建てBODEN債及びペソ建てで各銀行が発行する債券と、預金を交換することができる。

(3) 2003年度予算案を議会に提出

13日、政府は2003年度予算案を議会に提出した。予算案の主な内容は、歳出総額662億ペソ（前年度比実質2%増）、利払い前財政収支100億ペソの黒字（GDP比2%）、実質GDP成長率3%、インフレ率2.2%等となっている。

(4) 第二四半期GDP（国内総生産）の発表

19日、経済省から今年度第二四半期のGDPが発表された。前年同期比で13.6%の減少となったものの、前期（今年度第一四半期）との比較では、0.9%と若干の増加となった。投資の落ち込みが大きく43%の減少となった他、民間消費16.7%の減少、公的消費4.2%の減少、輸出0.8%の減少、輸入56.7%の減少（いずれも、前年同期比）となった。

(5) IMFとの交渉

19日、ケーラーIMF専務理事はドゥアルデ大統領と電話で会談した上、書簡を送り、

IMFとの合意に向けた要求事項を伝えた。同書簡では、「①裁判所の行政救済判決（amparo）による預金引出やコラリートの解除に関し、持続的な通貨プログラムの策定、②州政府の財政赤字問題に関し、財政協定の州議会による批准、③議会及び裁判所を含めた、国内の政治的コンセンサスの確立」を要求事項として挙げた。

28日、29日に開催されたIMF・世銀総会に出席するため、ラバーニャ経済相、ピニャネリ中銀総裁、ニールセン金融庁長官等がワシントンを訪れ、IMF幹部及びオニール米財務長官等と会談した。会談において、アヌープ・シンIMF西半球局長がこれまでの垂批判のトーンを下げ、ドゥアルデ政権との短期間の合意（長くても来年末まで）に前向きな姿勢を初めて示したため、総会后帰国する予定であった、ピニャネリ総裁、ニールセン長官等はワシントンに残り、IMFと詰めの交渉を行っている。

3. 経済指標の動向

（1）金融

為替市場は引き続き安定しているが、中銀は外貨準備維持のため、為替市場のコントロールを一層強化している。また、為替の安定と月利3～5%という高金利から、ペソ建てで期間30日の短期定期預金の増加が著しい。治安の悪化により、筆算預金よりも銀行に預金しておいた方が安心という判断も背景にあると見られる。

（2）税収

9月の税収は43.43億ペソで、5ヶ月続けて対前年同月比で増加した。インフレによる付加価値税収の増加や輸出税の増収が主な要因であることは変わらない。債券による納税が問題となっていたが、5日、レコップ債とパタコン債を除く債券での納税を禁止する大統領令が公布された。

（3）産業動向

（イ）小売（8月）

スーパーマーケット売上高は、対前年同月比で33.8%の大幅な増加となったが、これは販売数量が23.1%減少した一方、商品価格が74%の上昇とインフレが進んでいることが要因であるという傾向は変わらない。ショッピングセンターの売上にも、引き続き同様な傾向が見られる。

（ロ）建設活動指数（8月）

建設活動指数は、対前月比では1.6%の増加となったものの、対前年同月比では27.5%と引き続き大幅な減少となっている。

（ハ）工業生産指数（8月）

工業生産指数（EMI）は、対前月比で2.7%の増加、対前年同月比では6.3%の減少となった。分野別で見ると、自動車や、建設活動の低迷を背景としてセメントが大きく落ち込んでいるが、粗鋼は大幅に増加している。

（4）物価

消費者物価指数は対前月比で1.3%の上昇で、今年に入ってから最低の上昇率となった。為替の安定や公共サービス料金の凍結が寄与していると思われる。一方、食料品など生活必需品のインフレは引き続き進んでいる。また、卸売物価指数も今年に入ってから最低の上昇率となっており、大幅な上昇を続けていた輸入卸売物価指数は前月比では下落に転じた。

また、中銀が発表する消費者物価指数を基にしたインデックス（CER）は、6月以降、上昇の傾きが緩やかになっている。

（5）雇用（8月）

労働省の発表によるブエノスアイレス圏、コルドバ圏、ロサリオ圏の雇用状況をみると、月労働時間には伸びも見られるが、雇用水準は引き続き下落している。

（6）貿易収支（8月）

8月の貿易収支は、約14億ドルの大幅な黒字となっている。輸出はメルコスール及びEU向けの輸出が減少したため、対前年同月比で15%の減少となった。輸入は引き続き、大幅に落ち込んでいる。